北日本新聞　（第3種郵便物認可）　新聞定価　税込み1ヵ月2987円、1部130円

富山市のＮＰＯ法人「富山湾を愛する会」は、富山湾の魅力をＰＲする「富山湾面白館（仮称）」の開設に向けて準備に乗り出す。富山湾の海底から立山山頂まで４千㍍以上の高度差を実感できる大型の立体模型（ジオラマ）を展示するほか、海中の様子や魚介類、海底林などをＣＧ（コンピューターグラフィックス）映像や写真で紹介する計画。同市岩瀬地区の公共施設での開設を想定しており、富山駅北―岩瀬浜電停間を結ぶ富山ライトレールとの相乗効果も狙い、にぎわい創出につなげる。

（政治部・一川孝文）

富山湾の魅力知って

富山のＮＰＯ「面白館」開設目指す

ジオラマ・ＣＧで紹介

「富山湾面白館」の開設に向けて構想を練る（左から）高見さん、石森さん、大田さん　＝富山市上野新町のアイペック

富山湾を愛する会は平成21年4月に設立した。メンバーは文字通り、富山湾を愛してやまない会社員や大学教員ら有志16人で、ほとんどが県内在住者。検査会社「アイペック」（旧富山検査、富山市上野新町）の会長、高見貞徳さん（70）＝富山市＝が理事長で、富山商船高専（現富山高専）名誉教授の石森繁樹さん（71）＝射水市＝が事務局長を務める。会のモットーは「富山湾を知り、守り、活かす」。富山湾を「神秘とロマンの宝庫」ととらえ、環境保全や美化推進を含め、総合的に活用する活動に取り組んでいる。

富山湾面白館の開設は数年後を目標にしており、「立山・黒部アルペンルートにも劣らない富山湾の魅力を紹介する内容にしたい」と石森さんは話す。富山湾と陸地の様子を再現した約5㍍四方の大型のジオラマを製作して展示し、富山湾最深部から立山山頂まで4千㍍以上ある高度差を実感できるようにする。

このほか、展示の候補として検討しているのは、複雑な海底地形や、約1万年前の樹根が並ぶ入善沖の海底林、ユーモラスな外見の深海生物「オオグチボヤ」、寄り回り波、蜃気楼、湾内にすむ魚介類などで、いずれもＣＧや実際の映像などで紹介する。会員の水中カメラマン、大田希生さん（43）＝富山市＝が撮影する映像や写真も生かし、大人から子どもまで楽しめるような施設にする計画だ。

富山市岩瀬地区にある公共施設内などでの開設を目指しており、富山ライトレールを利用する観光客らを呼び込みたい考え。高見さんは「富山湾はいわば眠れる獅子。無限の可能性を秘めている。『面白館』で魅力の一端を伝え、観光資源として活用するきっかけにしたい」と話している。

今後、会員や支援者を募るとともに、ミーティングを随時開いて開設場所の選定や計画の具体化を進める。入会などの問い合わせは1月4日から受け付ける。アイペック内の事務局、電話０７６（４３８）４１１６まで。